

第3回草津市子ども・子育て会議における意見の整理

(1) 中間見直しに関する意見

【計画の策定について】

- ・計画の策定や見直しを考えていく場合に、行政は情報の発信力が弱いという指摘もよくされているので、情報発信をしながら、必要な人に必要な情報が届き、その人たちが適正に利用できる環境を整えられるように考えてほしい。

(2) 各事業に関する意見

【就学前の教育・保育】

- ・フランチャイズチェーンの保育所が増えている。国の指針では人数を確保したら、点数をよくするとか、基準を高くするということがあり、保育内容よりも定員を強調されているような気がしているので、認可するときの基準として、保育内容もしっかり考えてほしい。
- ・家で安心して子育てができるようお金を使ってもらうために、補助金を出している市があることを知り、たくさんの選択肢があるということも必要だと思った。情緒の安定や心を育てる教育は、0歳から限られた時間の中でしかできないので、そこを安心して家で過ごしてもらい、また、家ではなくても子育てできる環境を整えていく、そのようなところにお金を使ってほしい。
- ・政策の中で子どもを持っていても女性も働けというような、また、それが当たり前だというような論調にとっても危機感を感じる。もちろん、働きたい人は働いてもいいと思うが、実は家にいたいけれど、家にいて「余裕があるのね」と思われるぐらいなら働こうというようなことにもなりかねない。そういう意味では、きちんと選択できるような社会になってほしい。

【放課後児童健全育成事業等】

- ・放課後児童育成クラブは子どもにとっての生活の場なので、支援員の役割が大きいと思う。大切な仕事なので、待遇の改善も検討してもらいたい。
- ・放課後に子どもたちが地域で遊ぶことも難しいような状況がある。そのような子どもたちの安心・安全な居場所づくりということも、これからの子ども・子育て計画においては重要な視点だと思っている。

【病児保育事業】

- ・病児保育事業について、本当に預けたい、預けないといけない親がどれほどいらっしゃるのかなと思う。子どもが熱を出してしまったら、親が仕事を休ませてもらえるように言える、また、職場の方も「そのような状況なら休んだらいいよ。あとのことはどうにかするよ。」と言える社会が本当は望ましいと思う。
- ・社会的に「子どもが病気ときは休ませてあげよう」という雰囲気は少しずつ広がっているように思う。一部の会社では休みにくいところもあるようだが、このような雰囲気が広がっていけばいいと思っている。また、このことはこの会議だけで考えることではなくて、社会全体が考えていかなければならないことだと思う。

(3) その他の意見

- ・本当に働きたいと思っている母親や働けるようになった母親が社会復帰できるかというところ、その枠がとても狭いように思う。だから、多くの方が早め早めに働いておこうという考えになってしまうのだと思う。求人を見ていると40歳以上の方には募集の枠がなく、女性の雇用の年齢を上げるようなことも大事だと感じている。
- ・社会の環境、雰囲気の中で、必要な人が必要な制度やサービスが受けられる環境づくりが必要になってくるだろう。また、情報の発信やサービスの提供については、障害のある子どもを持つ家庭や子どもたちに対してのサービス、環境も問題となってきている。
- ・草津市は子どもが遊ぶ場所が少ない。公園はあるけれど、どれも小さく、ボール遊びが禁止になっている。草津川の堤防できれいに整備するのも良いが、子どもが遊ぶ場所はそれほどきれいにしなくても、砂場でもいいのである程度広い場所をつくらないといけないのではないか。施設をつくってしまうと、その中に閉じ込めてしまうところがあり、また、サッカー場のような施設をつくっても、クラブや団体に所属している人はその施設を使えるが、単に遊ぼうとする人はそういう施設も利用できない。そういうところを一般の子どもにも利用させてあげるようにするようなことも考えないと、本当に遊び場所がない。
- ・子どもの居場所という大きな枠の中で、子どもたちと地域の人たちの交流や体験が安心、安全に行われるような環境を整備するために、公園の整備や児童育成クラブ、放課後子供教室といった視点を持って、検討してほしい。